

秘書官当時から面識

総務省幹部接待 本村氏が追及 衆院総務委



もとむら伸子衆院議員は16日の総務委員会で、放送事業会社「東北新社」に勤める菅首

武田総務相は19日の記者会見で、菅義偉首相の長男から接待を受けた秋本芳徳情報流通行政局長と湯本博信官房審議官を20日付で官房付に異動させると発表。事実上の更迭とみられます。

少なくとも146の病院がコロナ患者を受け入れ、重要な役割を果たしている」とし、再編統合を進める地域医療構想の撤回を要求しました。

また、高齢化に伴い増加する社会保障関係費の財源を地方自治体が確保できるような地方交付税の法定率引き上げを提起。武田良太総務相は引き上げについては明確に答えませんでした。

相の長男（元総務相秘書官）が総務省幹部を接待していた問題で、国家公務員倫理法違反が問われる利害関係者からの接待だと追及しました。本村氏は、総務省幹部と長男の関係はいつからかと質問。

接待を受けた湯本博信官房審議官は「秘書官当時お会いした」と答弁。同じく、秋本芳徳情報流通行政局長は、長男と東北新社グループ衛星放送子会社の社長と「2015年以降に私の執務室に来て名刺交換をした」と答えました。

谷脇康彦総務審議官と吉田真人総務審議官について、同省の原邦彰官房長は「谷脇審議官は（いつ知り合ったか）記憶していないとのこと、吉田審議官は長男が秘書官のころに知り合った」と答えました。

本村氏は、長男側から幹部4人に提供された会食費や贈答品、タクシーチケットなどの金額を明らかにするよう要求。「行政監視の責任を持つ国会でも答えるべきだ。1社からの接待がくり返しされているのは不自然だ」と追及しました。

総務相「ゆがみない」と強弁

衆院本会議 本村議員へ答弁

もとむら伸子衆院議員が、衆院本会議で16日、総務省幹部の接待問題について質問したのに対し、武田良太総務相は、「放送行政がゆがめられたことは全くない」と述べました。本村氏は、「官僚が忖度（そんたく）し、行政をゆがめた森友・加計疑惑と同じ構図だ。事実の徹底説明を」と迫りました。

静岡オンライン演説会 小池書記局長



地方財政計画 地域医療の強化を 衆院本会議 本村議員
もとむら伸子議員は16日、衆院本会議で地方財政計画や地方税法等改定案について質問し、公衆衛生・地域医療体制の強化などを求めました。

本村氏は、国が1992年から2020年までに保健所数をほぼ半減させてきた結果、コロナ禍で現場の疲弊を深刻にしていると指摘。保健所と保健師の数を元の水準へ戻すべきだと主張しました。

本村氏は「政府が再編統合・病床削減の対象とする436病院のうち

しまづ幸広前衆院議員（東海比例候補）は18日、今週から始まっている岐阜県の「東海ブロックキャラバン宣伝」に参加し、雪が降りしきる中、可児市、坂祝町、関市の中濃地域を駆け回りました。

大垣市長選に笹田氏
党西濃地区委員会は17日、岐阜県大垣市長選（4月11日告示、18日投票）に、党市委員長の笹田トヨ子氏（70）＝党公認＝を擁立すると発表しました。

静岡市議選（3月19日告示、28日投票）勝利をめざすオンライン演説会が13日開かれ、小池晃書記局長が、「4人全員当選で議案提案権の獲得と、新型コロナウイルス危機から命を守る政治への転換、総選挙での政権交代実現を」と呼びかけました。

小池氏は、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗前会長の暴言について「辞

任は当然だが一件落着にはできない。擁護してきた政府や与党の責任も重大だ。日本社会の深刻なゆがみを変えよう」と訴えました。

また、小池氏は「コロナ危機から医療、営業、暮らしをどう守るかが国政でも静岡市政でも真っ先に問われる」と述べ、保健所を市内全区につくり、保健師を増やすなど、全国的に保健所や医療機関への強力な支援、十分な補償や全額国費でのPCR検査の徹底拡充を主張しました。

衆院東海比例候補の、もとむら伸子衆院議員、しまづ幸広前衆院議員をはじめ、市議選で勝利をめざす、葵区の杉本まもる、市川正、駿河区の寺尾昭、清水区の内田りゆうすけ各候補が決意表明しました。